

科学館の



116

## M-Vロケット10分の1精密模型

資料登録番号  
AS-2003-65

M-V(ミュー・ファイブ)ロケットは、1996年に1号機の打ち上げに成功し、2006年の7号機まで8機が作られ6機が成功、1機が失敗した日本の宇宙科学研究所(ISAS)が運用した3段式固体燃料ロケットです。全長は30.8mで、固体式としては当時世界最大でした。火星探査機のぞみや小惑星を探査したはやぶさ、また計画のみになりましたが金星探査機あかつきなど惑星探査機を打ち上げられる能力を持っていました。

専ら科学衛星や工学試験衛星の打ち上げに使われ、1号機は画期的な電波望遠鏡衛星をはるか。5号機は小惑星探査をしたはやぶさ、最後になった7号機(8号機とは順



図2. 模型先端部

番がいれかわった)は、太陽観測衛星のひのでの打ち上げに成功し、ひのでは今でも現役です。

科学館が所蔵しているのは、宇宙科学研究所が制作した5号機の10分の1模型です(図1)。10分の1でももともとが大きいロケットなのでかなりの迫力があります。先端部は内部の探査機(はやぶさ)の収納状態が見えるようにカットしてあります。はやぶさといえば、太陽電池パネルを展開した写真をイメージしますが、打ち上げの時は縮こまり、キックモーターの上ののっている様子がわかります(図2)。

また、一番下の1段目と2段目をつなぎ、切り離しと同時に点火するための特徴的なご型の「継手(つぎて)」や、2段目の点火のさいに花びら状に展開する開傘パネルのひだひだ。緊急時にロケットを破壊するためのライン状の火薬ケースなどもキチンと再現されています。ロケットは極限まで軽量化するため、無駄なものは一切ありません。この資料は現在展示場4階に常設していますので、ぜひそういう目でごらんください。



図1. M-Vロケット模型

渡部 義弥(科学館学芸員)